

第 39 回 ASF 総会・推進委員会報告

2025 年 6 月 26 日（木）16:30～18:00、「第 39 回 ASF 総会・推進委員会」を、聖学院中高食堂にて開催しました。当日の様子をご報告します。

第一部 礼拝

○メッセージ 学校法人聖学院 院長／聖学院キリスト教センター所長 菊地 順
 「聖学院ファミリー～学生を覚えて」（ヘブライ人への手紙 第 12 章 1 節～2 節）



2023 年に聖学院は創立 120 周年を迎え、今年は女子聖学院が創立 120 周年の節目を迎えています。この 120 年の間、社会は大きく変わりましたが、関係者の尽力によりその歴史が刻まれ、多くの園児、児童、生徒、学生が学んできました。

本日は、聖学院大学人文科学部欧米文化学科に 1995 年に入学した鈴木享宏（すずきみちひろ）君についてお話しします。彼はアメリカンフットボールのクラブ活動中の事故により意識不明となり、30 年前の 6 月 26 日に 18 歳の若さで亡くなりました。この出来事はご家族、クラブの仲間、学校関係者に大きな衝撃を与えました。その後も毎月 26 日にはお墓参りに行き、ご両親への挨拶が続けられました。彼が卒業するはずだった年にはご両親を招いて卒業証書を渡し、グラウンドには彼を記念するモニュメントが建てられました。その日から丸 30 年が経過した今日、職員がお墓参りに行き、花を供えました。この悲しみは消えず、関係者にとって忘れられない出来事です。ASF 総会にあたり、聖学院ファミリーの一員である鈴木君を覚え、絆を深める機会となることを願います。

第二部

○前田 永喜 ASF 推進委員長挨拶



暑期中、総会にご出席いただいた皆様に心より感謝を申し上げます。推進委員長を拝命してから 1 年が経過しました。昨年 8 月には、小池理事長や前田局長とともに、同級生である老川祥一読売新聞グループ本社代表取締役会長を訪問し、今後の支援と協力を依頼しました。

ASF には大変長い歴史があり、初代委員長は畑中岩雄校長先生、2 代は海野次郎校長先生、3 代は女子聖学院の小花綾子先生、4 代は先輩にあたる稲永修さん、5 代は堀甲子先生、6 代は大野碧先生、そして 7 代は峰田将校長でした。聖学院中高の 100 周年時には、峰田校長とともに OB 訪問を行い、多くの先輩企業を訪問しました。

委員長としての使命は、より多くの人々に ASF への理解を深めていただき、その発展に貢献することだと感じています。昨年度（2024 年度）の募金目標額は 3 億 1500 万円でしたが、約 20%の減となり、目標を大きく下回ってしまいました。この目標設定が適切だったかを検証し、今期（2025 年度）は前田局長に、実績に見合うような目標設定（前年比約 75%）をするよう依頼しました。

推進委員長として、この目標達成を自身の責任の一つと捉え、出席者、特に教職員や ASF 推進委員の皆様、100%達成に向けた多大なるご協力をお願いいたします。

○小池 茂子 学校法人聖学院理事長挨拶



2025 年度 ASF 総会にご出席いただいた皆様に、学校法人聖学院を代表して御礼を申し上げます。前田永喜推進委員長はじめ関係者の尽力により、2024 年度は 665 件、総額 2 億 493 万 3137 円の寄付があったことを感謝とともに報告します。

聖学院には、変えるべきことと変えてはならないものがあります。変える必要があるものとしては、時代や社会の変化に適応するための教育活動があります。ネットワーク社会の中で、情報を正しく入手し読み解き適切に活用する力、グローバル化社会の中

で多様な背景を持つ人と協働して問題解決する力の育成などが求められています。また、変えてはならないものは、プロテスタント・キリスト教精神に基づく教育を行い、「神を仰ぎ 人に仕う」「Only one for others」といった建学の精神を体現する人材を育て世に送り出していくという教育的使命です。

今日「非認知的能力」（他者と協働して問題解決する力、誠実な人間性、グローバルに通用する倫理観、困難な課題に肯定的に臨む態度など）が注目されています。聖学院各校による、キリスト教を通じた人間教育、人格教育、英語教育、ICT 教育、グローバル教育、SDGs 達成に向けた課題解決型学習やボランティア活動などは、時代の要請を先取りしている取り組みであるといえます。質の高い教育を展開するためには、優れた人材の確保、施設・設備の整備・修繕、高度情報化社会に適応する教育機器の整備といった外的条件の充実が不可欠であり、そのための財源確保が必要です。

聖学院の法人および各校・園は 5 年間の達成目標である中期ビジョンを掲げて日々努力しており、理事会は教育の質の向上と財政経営改革に取り組んできました。また、今年の 4 月に施行された新しい私立学校法に基づき、7 月から新しい理事会・評議員会が発足します。新理事会でも第Ⅱ期聖学院ビジョンを継承し、神から託された尊い教育という使命を果たすため、120 年の伝統を新体制の下、次世代へつないでいく努力を続けてまいります。少子化が進む中で私立学校の経営は厳しさを増していますが、卒業生、後援会、在校生、保護者の皆様の力添えを得ながら、聖学院をますます発展させていきたいと考えています。引き続き、皆様からのご支援やアドバイスと共に、学校法人聖学院を応援していただければ幸いです。

○田村 綾子 ASF 担当理事挨拶



昨年度は都合がつかず動画での挨拶のみであったため、今回初めて皆様にお目にかかれたことに感謝を申し上げます。目標（募金額）を達成できなかった点については、担当理事として責任を感じておりますが、前田委員長のご尽力により、多くのご寄付を賜ったことは、聖学院の教育に対する信頼と希望を示すものと思います。特に幼稚園から大学院までを持つ法人は日本国内でも稀であり、長年にわたり人格教育と学問教育を行ってきたことへの信頼を得ていることは、少子化の時代において希望が持てる状況です。

近年の物価高やヤングケアラー問題、引きこもり問題など、子どもや若者を取り巻く厳しい社会状況の中であって、教育に携わる者には、未来を担う子供・若者がたくましくしなやかに生きていくことのできる力を育む使命があると考えています。子どもたちが「ここにいていいのだ」「大切にされているのだ」と感じられる教育を行うためにも、環境整備や人的充実も不可欠です。今後も推進委員会の皆様とともに、法人理事、教職員一丸となって、聖学院大学、高校、中学、小学校、幼稚園の全てが連携し、良い教育を行うための環境整備に努めていきたいと思ひます。

引き続き、皆様からのご支援、また同じ思いを持つ方を増やすことへのご協力をお願いいたします。

○2024 年度 ASF 募金実績報告/各校事業計画・2025 年度募金目標発表 前田 和則 法人事務局長

2024 年度 ASF 募金実績 (2024 年 4 月 1 日~2025 年 3 月 31 日)

プロジェクト区分	2024年度		2024年度募金実績	
	目標額 (円)	件数	金額 (円)	達成率
教育および施設設備充実 (大学院)	800,000	8	500,000	62.50%
教育および施設設備充実 (大学)	75,000,000	212	47,011,101	62.68%
教育および施設設備充実 (聖学院中高)	124,000,000	108	122,878,923	99.10%
教育および施設設備充実 (女子聖中高)	78,000,000	107	48,256,039	61.87%
教育および施設設備充実 (小学校・幼稚園)	33,000,000	86	27,499,074	83.33%
教育および施設設備充実 (みどり幼稚園)	1,200,000	54	336,500	28.04%
奨学金 (大学)	600,000	46	212,000	35.33%
奨学金 (聖学院中高)	1,500,000	23	1,700,000	113.33%
奨学金 (女子聖中高)	300,000	20	129,500	43.17%
奨学金 (小学校)	600,000	1	510,000	85.00%
合 計	315,000,000	665	249,033,137	79.06%

2024 年度の募金目標額は 3 億 1500 万円でしたが、実績は 2 億 4903 万 3137 円で、目標達成率は 79.06%にとどまりました。在籍者数の減少や施設設備に関わる大口寄付の減少などが目標未達成の要因です。プロジェクト別の寄付金額については表の通りとなります。

2024 年度、駒込新館を売却して、法人組織のスリム化を図り、法人事務局を女子聖学院内に移転しました。売却益は 2024 年度の教育活動資金に充当しました。聖学院小学校と聖学院幼稚園

園では、校舎の大規模修繕工事（不具合箇所の補修、外壁塗装）を実施し、建物の耐久性・安全性が向上しました。聖学院大学では、図書館の空調更新工事、防犯カメラシステムの更新工事、大学ホームページのリニューアルなどが、聖学院みどり幼稚園では、園舎の修繕工事や教具・遊具の整備が行われました。

聖学院中高では、省エネ対策として教室の第 1 期照明 LED 化工事、DX ハイスクール補助金を活用したフューチャーセンター教室のリニューアル工事、女子聖学院中高では、教職員用ノートパソコン、印刷機、プロジェクターの更新が行われました。2025 年 5 月には、女子聖学院創立 120 周年を記念し、後援会の支援によりクロウソンホールに生徒が自由に使えるラウンジが整備されました。

これらの事業に対し、各 PTA や後援会、同窓会の皆様からの多くのご寄付をいただいたことに改めて感謝を申し上げます。奨学金や将来に備えるための積立金も可能な範囲で実施しました。

2025 年度の募金目標額は 2 億円に設定しました。これは昨年度より約 1 億円の減額となります。減額の理由として、実態に合わせたことと、聖学院中高で校舎建築のための借入金返済財源としてお預かりして ASF 寄付として扱っていた PTA 特別会費を、2025 年度からは学納金に組み入れる形に変更し、募金対象から除外されたことが挙げられます。

2025 年度、女子聖学院では、120 周年記念事業として、5 月に生徒用ラウンジを整備し、10 月 29 日には記念式典の開催、また記念誌の発行が予定されています。

大学では、体育館へのエアコン設置、教室の AV 機器更新、ホームページリニューアル、聖学院中学校では、教室の第 2 期 LED 化工事、礼拝堂天井の耐震化工事、無線 LAN システム工事、女子聖学院中高では、校舎棟エアコン更新、教室プロジェクターの更新、体育館の修繕工事などが予定されています。

将来の計画として、大学・中高体育館や聖学院中高等学校棟の建築費用積立も継続して行います。

ミッションスクールとして、建学の精神を堅持しつつ新しい教育を進めるためには安定した財政基盤の構築が重要です。聖学院がより良い教育を実現し、人材を社会に送り出すため、推進委員の皆様に一層のご理解とご協力をお願いいたします。

※2024 年度 ASF 募金報告・寄付者名簿・協賛企業についてはコチラ
⇒ <https://www.seig.ac.jp/asf/donor-name/>

プロジェクト区分	2025年度目標額
教育および施設設備充実 (大学院)	800,000
教育および施設設備充実 (大学)	65,000,000
教育および施設設備充実 (聖学院中高)	30,000,000
教育および施設設備充実 (女子聖中高)	70,000,000
教育および施設設備充実 (小学校・幼稚園)	30,000,000
教育および施設設備充実 (みどり幼稚園)	1,200,000
奨学金 (大学)	600,000
奨学金 (聖学院中高)	1,500,000
奨学金 (女子聖中高)	300,000
奨学金 (小学校)	600,000
合 計	200,000,000

〔質疑応答〕

Q：個人の寄付金額が報告書に載っていないのはなぜか？

A：過去には金額を掲載していましたが、多少にかかわらず寄付いただいたことを尊重するため、金額は掲載していません。

Q：個人寄付の総額は表示できないか？

A：個人別、団体別の集計は可能であるため、今後の報告方法として検討します。

Q：個人からの寄付は、その後に企業等法人からの寄付につながるポテンシャルがあるため、もっと寄付したくなるような取り組みが必要ではないか。

A：貴重なご意見と受け止め、前田推進委員長と相談し、来年度に向けて改善を図っていきます。

○女子聖学院創立 120 周年記念事業報告 山本 真実 女子聖学院中学校・高等学校副校長

女子聖学院は今年度 120 周年という大きな節目を迎えました。これまでの歩みを支えてくださった多くの皆様、関わったすべての方々に感謝を申し上げます。

120 周年記念事業についてご報告します。10 月 29 日に、後援会、同窓会、PTA 役員、聖学院各校関係者に参列をいただき、記念式典を女子聖学院チャペルにて執り行います。全校生徒と共に 120 周年の歩みに感謝し、祈りの時を持つことを計画しています。本校で長く教鞭をとられた城築昭雄先生の執筆・編集による 120 周年記念誌の発行準備も進められています。

先日、後援会の支援を受け生徒ラウンジが設置されました。クローソンホールの一隅にあり、生徒が気軽に立ち寄れる新しい居場所として設計されました。ハイカウンター、テーブル、椅子が新調され、落ち着いた雰囲気になっています。5 月 30 日に礼拝形式でオープニングセレモニーを行い、利用が開始されました。暑さが増す中で、快適な避暑スペースとして中学生にも高校生にも好評です。ラウンジの名称は今後生徒から募集し、記念式典の頃に発表する予定です。



120 周年を機に教育活動面での新たな取り組みも進められています。今年度から高校探究ゼミがスタートしました。生徒は自らの関心に基つきテーマを選び、問いを立て、調べ、考え、形にする深い学びに取り組んでいます。この後、探究ゼミの一つである「ecomame」がプレゼンを行います。

学年ごとの宿泊行事も見直され、昨年度から中学 1 年生で「JLM キャンプ」(Jesus Loves Me Camp)が始まりました。今年度は中学 2 年生を対象とした「Nature eco Camp」が 9 月に実施されます。昨年度から中学 3 年生で「沖縄探究旅行」が始まり、高校生の修学旅行は今年度から「関西方面」に変更となりました。

変わらず受け継がれている行事として、運動会が 6/19 (木) に代々木体育館で開催されました。全校生徒が心を一つに競技に臨み、高校 3 年生の黄組が優勝しました。

女子聖学院は 120 年の伝統を大切にしながら、次の時代へと歩みを進めており、教職員一同「神を仰ぎ 人に仕う」精神のもと、生徒一人ひとりが社会に貢献できる人間として育つよう、心から取り組んでいます。引き続き、皆様の変わらぬご支援とお祈りをお願いいたします。

○聖学院中高事業報告 伊藤 大輔 聖学院中学校・高等学校校長

聖学院中高は 119 年の歴史を持ち、来年 120 周年を迎えます。学校には「変えるもの」と「変えてはならないもの」があり、その見極めが課題です。最近教職員には「コンセプトとコンテンツは違う」と伝えています。コンセプトは建学の精神のように変えてはならないもの、コンテンツは時代に合わせて変えてよいものです。「コンセプトを実現するためにこのコンテンツが必要なのだ」という筋が通って初めて、人々はこの学校を応援しよう、寄付しようという気持ちになるのです。

コンセプトとコンテンツが結びついた事例として、グラウンドへの人工芝導入を報告します。これは前田推進委員長の野球部の後輩にあたる長谷川文彦氏からの約 2 億円の寄付によって実現したもので、7 月から工事を開始し、記念祭までには完成となる予定です。グラウンドの傾斜や危険な古い木々も整備し、グラウンドがより広く使えるようになります。

引き続き、聖学院中学校・高等学校を覚えていただくようお願いいたします。



○生徒による活動報告プレゼンテーション

(1) 女子聖学院高校 探求ゼミ「ecomame」

山崎芽衣・鈴木美羽・山崎香凛・吉川桃加・山本環（高 2） 山田帆葉（高 1）

2021 年 2 月、77 回生が中 3 の時に SDGs 授業の感想文で「私も何かできることがあればやりたい」と書いたことがきっかけで、「ecomame」は始まりました。ボランティアに対する「真面目」「硬い」といったマイナスイメージを払拭し、身近でプラスなイメージを持ってもらえるよう心がけています。

これまでの主な活動として、レモネードスタンド（手作りのレモネードを 100 円で販売し、収益は全て小児がん患者支援団体に寄付）、フェアトレード活動（フィリピンのゴミ山で生活する「ウェイストピッカー」を支援する団体「ROBE」と連携し、廃雑誌を丸めて制作したペーパービーズでブレスレット作り）、小児病棟の子供たちへの支援（「スマイリングホスピタルジャパン」と連携し、工作キットを制作してクリスマスプレゼントとして小児病棟の子供たちに送付）、蜜蝋ラップ作り体験、こども食堂の手伝いなどを実施してきました。



「うれしい」「楽しい」という気持ちがボランティアにつながり、支援する側もされる側も笑顔になれるような活動を今後も続けていきたいです。「ecomame」のモットーは「真剣に遊ぶ」、今後も楽しさを大切にし、活動の輪を広げていきたいと思っています。

(2) 聖学院高校「みつばちプロジェクト」 伊藤喜也（高2）

メンバーは約20名で、中3から高3までが参加、社長、副社長、養蜂部、広報部、製造部があり、それぞれ役割に応じた活動を進めています。学校の屋上で養蜂活動を実施、採取したはちみつや、はちみつと規格外の果物を使ったジャム、ジンジャーエール、ドレッシングの製造・販売などを行っています。



(3) 聖学院高校「GIC（Global Innovation Class）」 中島悠陽（高3）、高橋巧己、荒井知憲（高2）

「GIC（グローバルイノベーションクラス）」の目標は「ものづくり」を通して世界に貢献すること。一般科目をベースに、GIC独自の科目（STEAM、リベラルアーツなど）で問題発見・解決の手法を学び、最終的には生徒一人ひとりが社会問題にアプローチする「プロジェクト」を実践します。「貧困 vs 起業ゼミ」の3人が、緑茶の香りのアロマディフューザー、廃棄予定の花を使った入浴剤、江戸東京野菜の滝野川ごぼうを使ったお茶の製造・販売について紹介しました。



※総会終了後、サンドウィッチを食べながらの懇談、ecomameのチャリティレモネード販売、みつばちプロジェクトのはちみつ製品、GIC生徒によるディフューザーや入浴剤、ごぼう茶の販売が行われました。



以上

ASF 推進委員 アンケート



ASF 推進委員アンケートにご協力をお願いします

⇒ <https://forms.office.com/r/Uf6tZSKxpe>

※ASF 総会報告についてのお問い合わせ
【ASF 事務局】 聖学院広報センター
pr_h@seigakuin-univ.ac.jp